

カタチが変わる

ウィズコロナで 意識変化

フリーアドレス制で成果 テレワーク移行もスムーズ

非破壊検査を手がけるアイペック（富山市、東出悦子社長）では、社員がオフィスで好きな席に座って仕事をする。固有の机を持たないフリーアドレス制の導入から2年が経過。「どこでも仕事ができる体制になった」（東出社長）ことで柔軟な勤務体系構築に弾みが付き、さまざまな施策を取り入れている。

社員はパソコンなどを入れたモバイルバッグをロッカーから取り出し、日ごとに違う席で仕事を始める。仕事が終わると、バッグをロッカーに戻す。

アイペック

他部署の社員間の交流を増やすのが目的だったが、モバイルバッグに入れて仕事道具を持ち運べるとあって、コロナ禍でのテレワーク移行もスムーズだった。「災害で出社が難しい事態にも強い制度と分かった」（同）と自信を深めている。

2021年には直行直帰の際に手当を付ける「スマートムーブ」を導入し、移動の手間や時間外労働を減らし、社員の負担軽減を図っている。場所を選ばず仕事ができる環境づくりは、新常態の一つの形になりつつある。



フリーアドレス制導入以降、柔軟な勤務体系を構築するためのさまざまな施策に取り組んでいる